



NEWS LETTER

Faculty of Economics, Oita University



2022年、大分大学経済学部は
創立100周年を迎えました

大分大学
経済学部

No.11
2022

ごあいさつ

大分大学経済学部は、1922年(大正11年)に全国で8番目の官立高等商業学校である大分高等商業学校(大分高商)で最初の入学生を迎え、その後、1944年に大分経済専門学校、そして1949年に大分大学経済学部となり、大分をはじめ全国、世界で経済・社会の中核を担う2万名を超える卒業生を送り出してきました。

これまでの100年の歴史と伝統の下、先端的理論と実社会との融合に力を注ぎ、大分という地域に位置しながら、グローバル化する社会で活躍できる人材養成を推

進しています。本学部は、経済、経営システム、地域システム、そして、社会イノベーションの4学科体制をとり、2017年設置の4つ目の学科である社会イノベーション学科では、企業や地域社会の課題解決などについて、地域における現場体験を組み込んだ実践的な教育を通じ、サービス開発・まちづくりの知見を備え地域活性化に貢献できる人材を輩出しています。

さらに、大学院では、社会の変革に対応するため、より高度な専門性と研究能力を有した人材育成を目指して、2007年に大学院博士後期課程「地域経営専攻」を設置し、学部教育から博士前期課程、後期

課程までの連携を可能としています。

コロナ禍をはじめ、少子化、地域活性化、デジタル化、環境問題など時代の変化、要請に応えながら、大分高商以来の高度な職業人養成というこれまでの伝統を土台とし、100周年のその後の更なる飛躍を目指します。新しくなったホームページでも学部情報を発信しております。右QRコードからご覧ください。



大分大学 経済学部長 高見 博之

学部生が語る経済学部の魅力 — 活躍中の分大経済生 —

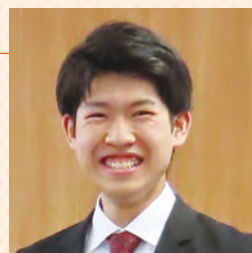
スポーツ学会の大会で報告し、農業にもチャレンジ

日野虎太郎 (Kotaro HINO) / 社会イノベーション学科 / 愛媛県立松山南高等学校卒

私は社会イノベーション学科の学生として精力的に活動してきました。ゼミの活動で、私は主に大分県スポーツ学会やプロ野球チームの「大分B-Rings」と連携をした活動に取り組んでいます。社会人の方と活動をともにしていく中で、課題の抽出とその解決、新しい情報や価値の共有をすることができました。また、私たちがこの分野で学修したことを大分県スポー

ツ学会の学術大会(2021年12月)にて発表をさせて頂きました。学外では農業分野で、イベントの運営や団体活動を行っています。今年のビッグニュースは、「米作りに取り組む!」ことです。私は愛媛県出身で、地域創生の分野に興味があり地域創生プログラムを積極的に受講しました。プログラムの中の2週間にわたる長期インターンや学びを深めるためのSA業

務を通じた結果「おおいた共創士『匠』」を取得することができました。残り少ない大学生活、自分自身をさらに輝かせるために未知の世界への挑戦、そのための努力をしていきたいです。



国際交流イベントを成功させ、やりがいと大変さを実感

佐藤理桜 (Rio SATO) / 経営システム学科 / 大分県立情報科学高等学校卒

大学ではGC(Global Crew)という国際交流ボランティア会で会長を務めさせて頂いています。経済学部では国際交流は盛んで、留学コースIBPをはじめ多くの海外学生との交流の機会がありますが、ヨーロッパ・アジアを中心に多くの交換留学生が来てくれます。そのお世話役の経験は私にとって貴重な経験になっています。GCの主な活動として、大分大学への多くの留学生と夏祭りや日本の文化体験などのイベントを通して交流してきました。しかし、コロナウイルスの影響で約2年間留学生が日本に来ることができ

ず、団体の存続の危機となりました。例年のイベントも行うことができず、約80名のメンバーを減らさず、どのように団体を維持させるか、本来の役割である留学生との交流はどのように続けるか多くの問題を抱えていました。日々悩まされながらも、幹部の仲間や担当の先生方と何度も話し合いを行い、オンラインでの交流をしました。小さな規模で地道な活動が続きましたが、無事、引き継ぐことができ、現在でも多くのメンバーが活動しています。状況が少し落ち着いた際に、感染防止の工夫を加えて七夕祭りやクリスマスイベントを

開催でき、本来のGCの役割を改めて実感できました。また、課題を解決しながら大人数の団体をまとめ、動かしていく大変さを経験できました。これからもできる範囲で活動を行い、以前のようにたくさんの笑顔があふれる交流ができることを祈っています。



留学プログラム (IBP)

経済学部では、「グローバルな視野を育む教育」を特徴のひとつとして位置づけ、1年間の海外留学を4年間の学修に組み込んだ学部独自の派遣留学支援 International Business Program (IBP) を行っています。プログラムでは、専用少人数演習や専用英語授業を通じて留学準備を進め、卒業時にプログラム修了の認定をしています。近年は毎年30名程度を、最も多くはドイツ・韓国を

はじめとして、アメリカ、オランダ等欧米アジアに広く送り出しています。IBPの修了生は、海外勤務や海外・国内での起業を含め、金融・流通・製造業等多様な業種で、また、英、豪なども含めた国内外大学院へ進学しています。また、財政的支援として、学部同窓生の寄附による学部独自の奨学金を設けており、同奨学金基金から月額4万円、また、プログラム専用のJASSO海外留学支援制度からは月額6～10万円の給付型奨学金のいずれかを留学する学生全員に給付して、グローバルな人材育成を推進しています。



オランダ NHL ステンデン応用科学大学での留学生活



田舎で輝き隊!

このプログラムでは、以下の3つのコンセプトのもと、大分県内の「田舎」が抱える様々な課題解決に取り組んでいます。1つ目は単なる体験や交流、提案ではなく、地域の方と一緒に、学生自身が課題解決に取り組む点です。2022年度は、宇佐市、杵築市、中津市で、古民家再生、「地域運営組織」の設立や活動計画の策定の支援、観光地再生に取り組んでいます。2つ目は、入学から卒業まで、連続したカリキュラムとなっている点です。1・2年生は、上級生のサポートの下で活動し、もっと本格的に取り組みたい学生は、3・4年生で指導する側に回ります。3つ目はゼミでの地域活動と大学での講義の連動です。これらを通じて学生同士、また地元の皆さんとの人間関係を作り、地域社会と共に学び合う人材育成と地域再生の「二兎を追」っています。興味がある方は、参加学生のSNSをご覧ください。



2021年度の中津市深耶馬商店会の方との話し合いの様子

第64回全九州学生商経ゼミナール 長崎大学大会に参加しました

大分大学、長崎大学、佐賀大学、福岡大学、熊本学園大学の各ゼミナール連合会が合同で企画運営している、全九州学生商経ゼミナール大会が各校持ち回りで毎年、11月頃に開催されています。2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、2021年度は長崎大学が当番校となり、第64回全九州学生商経ゼミナール長崎大学大会が2021年11月13日～14日に長崎大学経済学部片淵キャンパスにて2年ぶりに対面で開催されました。大分大学からは宇野ゼミから2グループ、高見ゼミから1グループ、仲本ゼミから3グループが参加し、各グループがそ

れぞれ経営戦略、観光、日本経済などのテーマで他大学のグループとペアを組み、夏休み期間中に執筆した論文を相互に読み込んだうえで大会にのぞみました。大会当日は各分科会に長崎大学経済学部の先生方が1人ずつ助言講師として参加し、適宜助言や指導をしてくださりました。参加した学生は、グループワークによる論文作成だけでなく、普段なかなかできない他大学の学生との交流やディスカッション、さらには他大学の先生から指導を受けるという貴重な経験を積むことができ、視野を広げることができました。

今年度は福岡大学が当番校となり、11月19

日～20日に福岡大学にて開催されます。今年度も大分大学からは宇野ゼミが2グループに分かれて参加する予定です。



ゼミナール大会終了後の記念写真

「子ども食堂」体験セミナーがテレビで放映—学部2年生・中級セミナーI

経済学部では、社会問題を「自分ごと」として考え、グループワークを通して解決策を考える課題探求型を行っています。その1つ、2年生の必修授業「中級セミナーI」では、大学の近隣「敷戸団地」内にある「子ども食堂」でのボランティアを通じて、子ども達の居場所作りを考えるセミナーを2016年から実施しています。30名から40名の学部生が、4名ほどのグループを作り、「子ども食堂」を自分の目や体で集めてきた課題を、アイデアソンという手法で、改善アイ

デアを発表していきます。この活動が、大分朝日放送 (OAB) の「じもっ! OITA」の「笑顔のおむすび」～子ども食堂だより～コーナーで2022年6月20日に紹介されました。セミナーの様子や子ども食堂の運営スタッフである経済学部生の活躍も分かる内容になっています。放映内容は右QRコードから見ることができます。是非ご覧ください。



すみれ学級で子どもと学部生の食事風景

入学すぐに挑戦できる人と機会に出会える

横尾真希 (Masaki YOKOO / 経営システム学科
2022年3月卒業 / 三菱電機株式会社勤務)

現在は関東地区で受変電設備など人々の暮らしを支える社会インフラ向け製品の営業を担当しています。

私は大学入学後、様々なことに挑戦しようとするようになったのが、経済学部の留学プログラム、IBPへの挑戦でした。その後、東南アジアでスタディツアーを運営する学生団体での活動やビジネスコンテストへの出場、大分のサッカーチームとコラボイベントをやるなど多くのことに挑戦してきました。スタディツアーを運営する団体は、大学1年時に4年生の先輩から紹介していただいたことがきっかけで参加しました。今振り返ると、入学後すぐに目標となる学内の先輩方と出会えたことが私の大学生活の大きな転機であったと思います。ビジネスコンテストは経済学部の講義で紹介されていたことで知り、先生方に最大限のサポートしていただきながら取り組みました。また、私が所属していた礎ゼミでは県内企業や起業家の方々と関わる機会が多く、そうした交流を通して様々な価値観に触れ視野が広がったことは、現在社会人生活の多くの場面で役立っていると感じます。

高校時代までは内向的な性格であった私がこれらのことに挑戦することができたのは、IBPを始め学生の挑戦をサポートする環境が学内に整っていたこと、目標となる先輩方や切磋琢磨しながらお互いを尊重し合える友人が身近にいたことのお陰です。このような恵まれた環境で大学生活を送ることができ、本当に良かったです。



手厚い経済支援や学部教員の指導を受けTOEIC890点、EU研究のため九大院へ

二宮直己 (Naoki NINOMIYA / 経済学科2022年3月卒業
九州大学大学院経済学府在学中)

私は経済学部でデイ先生のゼミに所属しEUの政治経済とイギリスのEU離脱問題について学びました。そこでEUの経済統合ならびにそれに関するさまざまな施策に興味を持つようになり、現在は九州大学大学院経済学府でEUの資本市場統合の研究をしています。経済学部に入ってよかったことは第一に久保奨学金による返済不要の60万円を受け取ることができたことです。これにより時間的余裕及び、各種検定の受験料や参考書代を大幅に賄うことができました。第二に試験関係の先生方のサポートの充実です。総合英語ⅢでTOEICを受験した際一年前よりスコアが低くなっており、地域学科の矢野先生へ相談に行きました。そこでアドバイスをもとに勉強し、次のテストでは自己最高の890点をとることができました。また、応用ミクロ・マクロ経済学セミナーの講義は普通の経済学の講義と違い演習問題を解くことに特化した講義で、主に経済学検定や公務員試験の問題を解きました。そのおかげで、経済学検定を受験した際には、経済学修士レベルとされているA+評価を獲得することができました。そして幸運にもこれらの検定試験の結果により、卒業時に四極会会長賞を受賞することができました。学部時代を振り返るとデイ先生との出会いは私のキャリアに大きな影響を与えた出来事でした。とても感謝しています。経済学部は受け身の姿勢ではなく主体的に行動すればどんなチャンスでもつかめるような環境です。みなさんもぜひ自分の関心があることを見つけて、積極的に取り組んでみてください。きっと、先生たちも真摯に伝えてくれると思います。



卒業生が語る経済学部の魅力 — 分大経済での学び —

念願の海外勤務の実現—分大経済での学びがあったからこそ

花田歩美 (Ayumi HANADA / 経済学科2013年3月卒業
三井金属鉱業株式会社勤務)

昨年までマレーシアにある海外子会社で経理責任者として、主に損益分析や資金繰り等の管理会計業務に携わっていました。現在は、埼玉県上尾市にある総合研究所に在籍し、新規開発品の事業化に向けた原価計算を担当しています。

マレーシア駐在時は、文化や価値観が異なる現地スタッフと一緒に仕事をを行う必要がありました。その際に、大分大学経済学部柴田ゼミ所属時の、他大学との討論会の運営経験が活かされました。そこでは、運営責任者として、討論会当日のスケジュール管理だけでなく、ゼミ内の発表テーマ進捗管理も任せられました。準備を行う中で、意見が対立することもありましたが、相手の考えも尊重しつつ、私としても譲れない部分は相手に理解してもらえるまで粘り強く伝えることで、お互いが納得できる方向性を見つけ、討論会までに一つの発表にまとめあげることができました。この経験は、マレーシアという多民族国家で仕事をする上でも役立ちました。

もともと海外勤務に憧れがあり、大分大学経済学部に進学した理由も、海外研修や留学に力を入れていることがきっかけでした。在学中は、タイ・ベトナムへの海外研修、国際学生フォーラムへの参加を通じて、現地の学生との交流や日系企業の海外工場等を訪問する機会に恵まれました。また、4年次には、大学から返済不要の奨学金の支給を受け、半年間のシンガポール留学も果たしました。

念願の海外勤務が実現できたのも、大分大学経済学部での学びや経験があったからこそだと感じています。特に、ゼミの指導教官であった柴田先生には、ゼミ活動を通じ、成長の機会や気付きをたくさん与えてくださり、感謝しています。



市役所勤務と大学院の両立—その土台は分大経済で過ごした日々

松下茉那 (Mana MATSUSHITA / 地域システム学科
2015年3月卒業 / 神戸市役所勤務)

私は神戸市役所職員として勤務する傍ら、神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程に在学し、大阪市立大学都市研究プラザにて特別研究員をしています。神戸市役所では、介護保険と後期高齢者医療保険の業務に携わっています。大学院では、韓国の簡易宿泊所密集地域での住民自治組織の形成について研究をしています。

経済学部で特に貴重な経験だったと思うことは、幅広い分野の授業と留学プログラムであるIBPに所属したことです。経済学部では、経済学のみならず法律や社会福祉に関する様々な講義を受けることができました。特に地域福祉に関する授業では、日本における貧困の状況を目の当たりにし強く衝撃を受けました。その授業では、社会保障や公的扶助の制度についてだけではなく、生活上何らかの困難を抱えている人に対して、行政や民間団体で行われている現場での支援実践についても学びました。この授業での学びは今の業務にも繋がっており、複合的な環境に置かれている市民のニーズを丁寧に汲み取り、必要とされている政策立案はもちろんのこと、他部署や民間団体と連携し包括的な支援を行うことへの重要性を日々実感しています。

IBPでは、留学に対する姿勢や、目的意識をもち現地で学び、そしてそれをどのようにアウトプットするのか、という点について学ぶ機会が多々ありました。それにより、現地では語学力向上だけではなく卒業論文を見据えた勉強や現地の文化を理解活動に熱心に取組みました。この経験から常に目的を明確化させそして実現させようとする力が養われ、現在の仕事や研究への取り組み方に活かされています。

今振り返ると、現在の私の土台は経済学部で過ごした経験から成り立っており、先生方をはじめ友人、そして充実した留学制度を提供してくださった経済学部に感謝の気持ちでいっぱいです。



国内外の経済・社会・政治の仕組みを理解する講演会を随時開催中

経済学部では学外の専門家・有識者による学部講演会(経済学部教育研究支援室主催)を年6回ほど開催しています。今回は、今年度開催の2つの講演会をご紹介します。

地域金融のこれからについて講演

第1回経済学部講演会が4月21日、金融庁監督局銀行第二課長(現・監督局参事官)の新発田龍史氏による「地域金融が切り拓く大分の未来」というテーマで実施されました。経済学部講演会としては2年半ぶりの開催となり、黒土始記念講堂での対面とオンラインのハイブリッド方式で、ベンチャー起業論などを受講している学生や公開授業受講生など約200人が聴講しました。今回のきっかけは、2020年7月に提携された豊和銀行と本学部との「大分の地域経済発展に向けた課題解決プロジェクト」によるもので、講演会には同行の権藤淳頭取をはじめとした関係者も参加されました。

新発田氏は、銀行の監督という業務について説明されるとともに、VUCAを例に、今は予測不可能な時代である、その中で変わらないためには動き続けることが大事だと強調されました。こうした中で地域金融機関も変化しなければならず、その一環として、中小企業・地域経済・コミュニティのよき理解者としての存在であることを認識し、顧客との共通価値向上のためには、販路開拓やコンサルティング機能などの地域総合会社に活路があるのではないかとお話しされました。

講演会に参加した学生たちからは、「金融庁の仕事が明確になった」「知識創造バンク」として地域金融機関が変化するにはイノベーションが大切である」「将来自分が何をしたいか、何をすればいいのか未だに見つけられない私にとってヒントになった」などの声が聞かれました。



講演された金融庁の新発田氏

EUとウクライナ情勢を考える講演会を開催

2022年6月24日、ブリュッセル統治大学院CSDS特別教授・元駐日EU代表部副代表/公使であるミヒャエル・ライター教授をお招きし、「EUと日本のよりよい協力関係と現在のウクライナ情勢」と題した講演会を経済学部101号教室にて開催しました。

学部生100名ほどが参加し、EUの外交サービス(欧州対外行動庁)の中心で活躍されている方のお話を聞くことができました。ご講演は、2018年の日・EUのジョイントサミット(首脳協議)から、ウクライナ戦争やインド太平洋地域で続く課題を背景に開催された、2022年5月の第28回定期首脳協議までの、日本とEUの関係の発展に焦点を当てたものです。外交目標、エネルギー安全保障、気候変動、高齢化社会への対応などの問題で、日・EUの共同行動が始まっていることが紹介されました。学部生からも質問が多数でした。最後に、今後もグローバルな問題への理解を深めたい学生に対し、ライター教授は、「信頼できる情報源から情報を見分ける方法を理解すること」と述べて締めくくり、加えて、ヨーロッパでの出来事がアジアに影響し、そしてその逆もまた然りであることは、相互につながった今日の世界では、もはや避けて通れないことだと強調されました。



経済学部玄関前にてライター教授

大学院説明会をハイブリッド方式で開催

2021年12月6日、本研究科の新規取り組みである大学院説明会を、経済学部203号教室にてハイブリッド方式で開催しました。感染対策を実施した会場に3名、オンラインに12名の合計15名の参加者が集まりました。説明会ではまず大呂興平教授から、経済学研究科のコースとカリキュラム、履修サンプルおよび研究テーマ例、過去の社会人在学生の業種と志望動機、授業料と入試などについて説明がなされました。次いで、行政の管理職として修学し政策立案につなげた方、メーカーの理系研究職でありながら経営学を学び営業部門との対話を深めている方、経営学を学修した後に金融機関の管理職として活躍されている方、マーケティング論を学んで大学院修了後に新たなビジネスを起業された方といった4名の修了生から在学時の体験談が披露されました。今後とも、対面とオンラインを上手く組み合わせながら、説明会を実施していく予定です。



大学院説明会案内チラシ

創立100周年記念式典・講演会を開催

2022年は1922年に経済学部の前身である大分高等商業学校の開学から100年に当たる年で、さまざまな事業を開催しています。このなかで2022年6月25日にiichiko総合文化センター音の泉ホールにて400名近い参加者とともに100周年をお祝いしました。式典では各界からの祝辞、特別功労者や連携講義団体への表彰などが行われました。式典・講演会の司会は、本学部卒業生でもあるTOSテレビ大分の小笠原正典アナウンサーにご依頼し、TVニュースでも取り上げられました(右QRコード)。講演会には直木賞作家の安部龍太郎氏による「大航海時代と大友宗麟」と題した講演が行われました。講演は一般の方にも解放し、音の泉ホールが満席近くになるなかで、100周年の記念行事・講演会が無事開催されました。100周年を経て、これまで通り、これからも多彩な人材を生み出す経済学部にご期待ください。



記念式典の様子
(音の泉ホール/左手・小笠原正典アナウンサー)